

contents

ご挨拶	1
令和2年度海外農業研修事業	2
令和2年度農業研修生受入事業	3
研修生からの便り / 歴史からひも解く、海外農業研修事業	4,5
未来の畜産につながる高校生の声	6
協会の動き	7
協会の行事	8



ニューファーマーズ 249 号からは、オンライン配信になります。
 本会ホームページに掲載するほか、Email で配信します。
 詳しくは 8 ページをご覧ください。

ニューファーマーズ No.248 |
 2020 年 (令和 2 年) 7 月 (年 2 回 1 月、7 月発行)
 ホームページ: <https://www.jaec.org>
 フェイスブック: <https://www.facebook.com/jaec.trainee>



編集・発行 / 公益社団法人国際農業者交流協会
 〒144-0051 東京都大田区西蒲田 5-27-14 日研アラインビル 8 階
 TEL: 03-5703-0251 (総務部) 03-5703-0252 (派遣業務課)
 03-5703-0253 (活動支援課) 03-5703-0254 (受入業務課)
 FAX: 03-5703-0255

「自己改革」

副会長 五月女 昌巳
 (栃木 / S43 / 米 1)



「我々が、海外の農業から学ぶことは何か」は大切なことだが、「海外に良い種子を播くことだ」と米国第一期生 (実習生) の元有明町長の和田喜造先輩はサンフランシスコに着く前日、船上で伝えたという。

日米両国が合意の中、カリフォルニア農業研修生の派遣が昭和三十一年九月に始まった。当時会長の石黒忠篤参議院議員は実習生の出発、帰国時必ず羽田に居たという。石黒先生が農業青年に夢を託したカリフォルニア農業研修事業では、十年間で四千百名が六十億円を得て、帰国後の経営に生かされた。いかなる時代であろうと火事後の釘拾いにならぬよう、過去に経験した地震、津波は生たる物を失い、今般のコロナ大流行は世界中を巻き込み一波から二波へと進んでいる。そのような中、国際交流事業がどのような展開をするのか、国内外の方々から我々の活動に期待が集まっている。

外国人労働者百六十六万人は大都市に多く、地方レベルでは数千人単位の労働力を必要としているのは現

実であるが、本会事業の技能実習生は他の産業の労働実習生とは異なる。動植物を育て食糧とする我々は、その技術、労働力を万人の物とすべき事で、評価もそこにある。持続可能な世の中を求め、過去の MDGs から SDGs と成り、国際的合意の中での経済の世界戦略は、各産業内で我々の活動の方向転換が求められよう。本会研修事業が「畑で水練を習う」にならぬよう、会員盟友こそ真の友として、組織の力が必要である。

景観の素晴らしい、そして地域資源が多い栃木北東の交流の中、空き店舗を再生して日用品販売や燃料販売等行う株式会社「かなめ」商店を行う事となった。地域住民の有志で、地元の名刹、雲巖寺の協力を得て社長は同寺の僧侶となった。店内には新たにカウンター席や子供たちの学び場、老人の集う場を設け、地域の「憩いの場」となる。

もう一つの地域づくりは情報通信技術 (ICT) を導入したホテル事業。この場所は農業法人那須野ヶ原ファームの広大な土地で、景観の人気スポット。牧場事業を含め投資は十億円を超える。社長はゾゾグループを退社しこの事業に着手しているが、訳あって栃木県国際農友会の友人達と共に協力することになった。

この二つの事業はコロナ発生後の事である。

しかるに、自己改革をどうするかにある。



令和2年度 海外農業研修事業は… 実施します!

国際化が進んだ現代社会において、今回の新型コロナウイルスの蔓延ほどに大きな影響を受け、活動が制限されたことはかつてなかったはずです。今はまだその戦いの途中、そして、新しい生活様式という、ウイルスとの共存の道の半ばであり、海外農業研修事業もその道すがら重大な変更を余儀なくされてきています。

すでにホームページではお伝えしていますが、今年の3月渡航予定だったアメリカ、オーストラリア、オランダ研修生たちは、渡航が延期となりました。ドイツ、スイス研修生たちは3月10日に渡航し、現在農場での実習を行っています。

平成30年度欧州・オーストラリア研修生たちは3月11日に無事に帰国しました。いつもであれば帰国報告会・修了式を開催するところですが、集会を避ける必要があったため中止としました。平成30年度アメリカ研修生は、現在農場での研修を継続していますが、カリフォルニア大学デービスキャンパスでの専門学習や、最終研修旅行等が中止となり、現在アメリカ側と調整し、10月の帰国日まで農場実習することとしました。

さて、4月1日より令和2年度の海外農業研修事業の募集を開始しました。確かに新型コロナウイルスの影響が大きい中で、参加者にとっても、

そして、啓発活動で応募者にお声掛け頂いている皆様にとっても、不安が付きまとい積極的に海外農業研修のことを考えることができないかもしれません。しかし、本会では、社会情勢も考慮しつつ新年度の海外農業研修がしっかり実施できるように準備を進めています。近々状況が改善されて、来年3月にちゃんと研修生が渡航できるようにするためには、今のうちからできることをしておかなくてはなりません。

現段階では集会を避ける観点から説明会や啓発キャラバンを控える状況にありますが、身近にいる農業青年や農業関係団体等への積極的なPRをお願いいたします。

今年度は、LINEでの情報共有も積極的に行っていますので、ぜひ友達登録して、最新情報をGetしてください!



← LINE 友達登録
はこちら

また、YouTube、FacebookなどのSNSでも情報発信をしています。さらにコンテンツを充実させて、海外農業研修を分かりやすく、安心して利用してもらえるように努力してまいります。

令和2年度アセアン等 農業研修生受入事業について

新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起こり、今なお、世界のどの国もその渦中から抜け出せていません。緊急事態宣言が解除され、第一波を乗り越えた日本も、ウイルスが撲滅された訳ではなく、第二波、第三波に備えなければなりません。

また、感染症拡大の予防策として、三密を避けるための「ソーシャルディスタンス」や「リモートワーク」など、我々の行動様式にも大きな変化が求められています。

コロナ禍中においても我々はインターネットやSNSを介し、世界中の情報を入手できる便利な時代に生きていますが、それらでは決して得ることのできない貴重な経験を生み出す本会の研修事業が今大打撃を受けています。

日本政府の新型コロナウイルスの水際対策強化に伴い、海外からの入国が厳しく制限されています。また、VISA発給が停止されたことにより、今年3月から4月に日本に来るはずだったアセアン研修生、ドイツ人研修生、フィリピンからの技能実習生の来日の目途が立たなくなりました。

アセアン研修生の受け入れは単年度事業であるため、来日が遅れるほど研修期間が短くなります。事業の真意や研修意義を考えた場合、8月末までに来日できなければ、今年度のアセアン農業研修生受入事業は中止という判断をせざるを得ません。本来であれば、今年も春にタイ、インドネシア、フィリピン、そしてドイツから研修生が来日し、日本全国で受入農家の指導の下、農業を学び、日本の家族と忘れられない思

い出をいくつも作ったに違いありません。そのようなことを考えるたびに悔しさとやりきれなさで頭がいっぱいになります。

また、フィリピン技能実習生受入事業（長野）においては、今年度受入人数の3分の2が9か月間の事業であり、高原野菜の産地の農繁期が限られていることから受け入れを断念することとなりました。

本会としては、コロナ禍によるとは言え、このような状況で受入農家の皆様に多大なご心配とご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

現在、事業を断念することになった技能実習生の受入農家に対し、コロナの影響で一時帰国を余儀なくされた青年海外協力隊員に協力を呼びかけ、配属を行っています。また、渡航前実習の一環として渡航が延期となっている日本人研修生の一部も実習しています。

今は、アセアン研修生の受入農家にも配属が可能になるようJICA、JOCA（青年海外協力協会）との本格的な協議を始めています。

また、農家の方々の労働力不足解消の一助とするため、本会ホームページの求人・求職ページをリニューアルし、求人情報を無料で掲載できるようにしましたので、お気軽に問い合わせいただき、ご活用ください。

最後に、行き先不透明な過酷な状況下ではありますが、皆様のお力になれるように受入業務担当職員一同全力で取り組んで参りますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

みんなで一緒に乗り越えましょう。

清水利広 金子のぞみ 須藤寿吾 久保寺翔太
高橋竜生 大山ゆい 市原幸江

研修生からの便り



“今感じていること”

H30 アメリカ研修生 / 鈴木 淳也（埼玉県出身）

研修配属農場：Dixon Hay Co, Inc.

カリフォルニア州の農場での実習が開始されて1年が経ちました。私が研修を行っている Dixon Hay Company は、牧草の買い付けを行い、それらを加工して日本を中心としたアジア諸国に輸出する事業が主です。研修生が行う仕事は Angus 種の繁殖事業があります。飼養管理、種付けの他にも、先輩研修生たちの計画を引き継いで、農場の立ち上げ作業などほぼ毎日違うことをしています。

農場マネージャーの藤島修二さんはアメリカ研修のOBです。牛、牧草についてだけでなく、人として大切なこともたくさん教えてくださいます。Office の人たち、外で一緒に働いている仲間はいいい人たちで、この農場は私を人として成長させてくれます。私がこの農場で持った目標は、経営感覚を持

ちつつ作業もこなせるオールラウンダーになることです。

COVID-19 が世界中に混乱を招きました。最初流行り始めたときは、アメリカ人はマスクをしていませんでした。逆に私がマスクをして店に入ると避けられ、嫌なことも言われました。しかし、アメリカで感染者数が激増すると、店からマスクや除菌剤が消え、物資の買い占めなど一気にみんなが身を守り始めました。

いつ終わるかわからない災害に不安もありますが、考える時間が増えたことでやりたいことも見つけ、良くも悪くも生活を大きく変えることになりました。残り数か月となったアメリカでの研修、目標を見失うことなくやり遂げたいです。



歴史からひも解く、 海外農業 研修事業



コロナ禍にあり、2019 年度研修生のうち、アメリカ、オーストラリア、オランダの研修生が渡航できていません。長い海外農業研修事業の中では、研修事業が滞り研修生の渡航が延期になることはたびたび発生してきました。

昭和 33 年には、カリフォルニアに 3 年制の実習生を送り出す事業を展開した農業労務者派米協議会において、アメリカ側の景気後退や雇用情勢により 2 回生の派遣が 1 年にわたり中断したことがありました。その再開に向けて推進母体強化を目的に 1 月 13 日に鹿児島県にて大会を開催しています。この際に同協議会の会長であった石黒忠篤氏のあいさつをご紹介します。今、私たちが向き合う問題と重なり、勇気を与えてくれます。

“ スイス研修 2ヶ月を過ごして ”

2019 スイス研修生 / 松本 直哉（静岡県出身）

研修配属農場：Fam. Benno

スイスでの研修が始まってから約2か月が経ちました。農場で与えられた作業内容は、放牧・子牛の哺乳・牛舎清掃などです。飼養管理は、日本と大きく違ってしています。例えば、毎日牛を放牧する事や、飼料は大量の青草や乾草で、濃厚飼料はあまり給与していないことです。

渡航前には、初めての海外ということもあり、日本とは何もかも違う異世界のように思っており、不安な気持ちが少なからずありました。受入農家さんに到着し挨拶を終えた時、最初に感じたのは「安心感」でした。なぜならば、私を家族の一員として受け入れてくれたからです。スイスで生活している内に、日本での生活と根底は共通しているのだと感じました。

しかし、言語を受け入れるには時間がかかりました。最初は、ドイツ

語をうまくしゃべることができないのに、聞き取ることができないので、勘違いなどがありました。仕事も身体が慣れていないこともあって、間違いや失敗をしたこともありました。しかし、そんな中でも積極的にドイツ語を使うようにし、わからないことはすぐに質問したり、考えていることは相談したりしているうちに、次第にドイツ語を受け入れることができるようになりました。今では、日本との違いをみつけ、それについて質問などをして会話をしています。

残りの時間で、もっと積極的に家族と会話をし、いろいろな体験をして、この研修を素晴らしいものにしていきたいと思っています。



不屈不撓の精神を持って

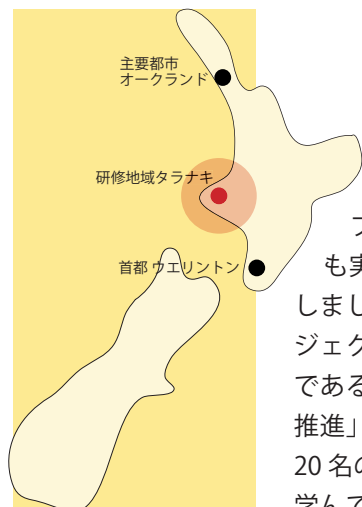
国土狭く、人口の多い日本の国情では、先ず国内的にはあらゆる努力を傾けて生産を興し、職業と食糧を確保して国民の収容をせねばならない。他面、海外に向かっては貿易を盛んにすることはもちろん、平和的海外移住の戸を拓かねばならぬ。このことは、明治の近代国家として発足した当時の日本の方針であったが、わずか二日間で世界一周ができる程、文明が進歩した今日においても、上記の事情は50年前と少しも変わっていない。これは我が国の運命とも言えよう。（中略）

日本人は賃金など安くてもよく働いた。しかし、これは米国労働組合から言えば、低賃金と労働条件を無視して働くので、折角改善されつつある労働条件を低下させるものとして、労働組合との間にトラブルが絶えなかった。

一方日本人は米国風俗習慣に溶け込まないなどが重なって、日本人学童のパブリックスクール通学禁止、土地所有権禁止、入国禁止を含めた猛烈な排斥運動がおこり、1924年排日移民法が制定され、永住のための日本人の渡航が全面的に禁止された。（中略）

日本の青年が真面目で勤勉で器用であることは一般に認められて今日に至った。私は1日も早く米国政府との話し合いが成立し、青年諸君が渡米できるようになることを心から願っている。もし万が一、一時的に中断されるようなことがあっても、私はこの事業を断念しない。

“不屈不撓の精神”で漸進していくつもりである一。（後略）



未来の畜産につながる高校生の声

平成31年度未来の畜産女子育成プロジェクト

JRA 日本中央競馬会畜産振興事業により平成 30 年度に開始しました未来の畜産女子育成プロジェクトを、平成 31 年度にも実施しプロジェクトが無事に終了しましたことをご報告します。本プロジェクトは、畜産振興事業の重点事項である「畜産現場における女性の活躍推進」を目指し、畜産業の未来を担う 20 名の高校生たちに海外の畜産事情を学んでもらう海外研修と、その経験を広く啓蒙する活動とを合わせた取り組みのユニークさが注目されています。



高校生の夏休み期間を利用し、海外研修の舞台に選んだのは、ニュージーランド北島のタラナキ地方。この地方は畜産業が盛んな地域で、畜産業における環境問題対策の取り組みも積極的に行っています。また、トム・クルーズ主演の映画『ラストサムライ』の撮影地としても有名です。海外研修では、外国語による授業 ESOL : English for Speakers of Other Languages、農業講義や農業演習、学校周辺の農業視察、そして、実際に活躍する女性農業者との意見交換等を実施しました。さらに、ファームステイを通じてニュージーランド農家の生活スタイルを学び、学校寮で生活する現地生徒とのバディシステムにより、同年代の畜産を目指す若者たちとの交流機会の場を設けることができ、グローバル感覚を養うことができました。

帰国後、高校生たちは、このプロジェクトで得た知識や経験を参加していない人たちと広く共有し、畜産業の魅力を発信していく「畜産アンバサダー」として活動しています。青森県、群馬県、福井県、愛媛県、鹿児島県で

開催されたブロック別国際化対応営農研究会にも登壇し、「女性が活躍する未来の畜産に向けて」というタイトルで、元気いっぱいに発表してくれたことは記憶に新しいことと思います。高校生たちの畜産アンバサダー活動は、この営農研究会の場にとどまらず、地域別の活動も実施しました。農業クラブの大会、地域の小学校や中学校への訪問、農家の勉強会の場での発表にも及び、各地での畜産アンバサダー活動は、昨年度の 8,631 名を大きく超える、13,298 名の方に畜産の魅力を伝えることができました。

令和 2 年度については、現地研修をデンマークで開催する予定で準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け中止としました。全国の学校、保護者、また生徒自らから、実施について期待の連絡をいただく中、実施の可能性を最後まで模索していましたが、苦渋の決断となりました。

また事態が良くなりましたら実施をしたいと考えていますので、是非、応援をよろしくお願いします。未来を担う若人たちが日本の畜産業を明るく照らしていけるよう、ONE TEAM で努力を続けてまいります。

研修成果を広く普及するため、ニュージーランド研修のダイジェスト版パンフレットも作成し、皆様にお送りしました。



協会の動き

賛助会員・寄付のお願い

国際農業者交流協会の活動をご支援ください！

●賛助会員

本会の活動にご賛同いただき年会費によって本会を支えて頂いております。

●寄付金

本会への寄付金は、公益目的事業の運営に用いることと定められています。詳細は本会ホームページをご覧ください。

賛助会員及び寄付者には、税額控除団体の証明書と共に領収証を翌年2月中旬までに送付しますので、確定申告にて税額控除を受けることが出来ます。

また、公益法人への寄付に関する詳しい説明のあるページをご紹介します。

公益法人 information

https://www.koeki-info.go.jp/pictis_portal/other/zeisei.html



賛助会費・寄付金へのお問い合わせはこちら▷TEL.03-5703-0251

令和元年11月15日以降(NF247にて紹介後)に御寄付頂いたのは次の方々です。(令和2年6月9日現在)

北海道 / 蜂須賀 俊光 堀 壮一 瀬口 俊行 前田 友司 仲野 紀年 富盛 裕之 小林 靖夫 青森県 / 吉田 秀美
岩手県 / 伊藤 善光 三浦 利章 横石 善則 宮城県 / 堀米 荘一 秋田県 / 高橋 浩人 深澤 誠 山形県 / 伊藤 誠之
福島県 / 津守 金則 茨城県 / 岡野 竜也 木名瀬 幸吉 群馬県 / 木村 哲也 彦部 潔士 佐藤 弘樹 埼玉県 / 小峰 孝
正木 弘道 石井 豊史 千葉県 / 郷 崇倫 成山 敬治 東京都 / 高杉 晋一 神奈川県 / 八日市屋 敏雄 新潟県 / 仁多見 繁隆
本間 新太郎 長野県 / 宮崎 光弘 岩田 康宏 静岡県 / 橋本 宗樹 石川県 / 北野 儀一 福田 進 西原 光臣 愛知
県 / 小島 正雄 三重県 / 赤塚 充良 滋賀県 / 中井 榮夫 京都府 / 中野 宏 大阪府 / 西野 安藏 兵庫県 / 汐谷 保
西浦 道雄 奈良県 / 吉川 信也 徳島県 / 楠 正人 愛媛県 / 梶谷 大治 福岡県 / 太田 英樹 佐賀県 / 稲富 篤 蒲原 喜己
西村 義己 熊本県 / 一瀬 俊郎 小室野 幸隆 鹿児島県 / 宮迫 泰倫 鶴川 直子 東 博光 善宝 忠文 沖縄県 / 仲本 英宏
(順不同、敬称略)

また同じく、今回新たに賛助会員へ入会された方々です。

北海道 / 前田 茂雄 妹尾 英美 青森県 / 大粒 来 俊幸 東京都 / 岩田 弦 愛知県 / 横山 賢一 兵庫県 / 西浦 道雄 岡山県
/ 石原 直樹 徳島県 / 富長 伸司
(順不同、敬称略)

令和2年度通常総会

令和2年度通常総会は新型コロナウイルス感染症予防対策により書面表決にて実施され、下記の議案が原案通り承認されました。決算書類等は協会のHPで閲覧できます。

- 第1号議案 令和元年度事業報告及び収支計算書類の承認
- 第2号議案 長期借入と借入限度額の承認
- 第3号議案 国際農業交流事業推進基金の運用等
- 第4号議案 国際農業交流事業推進基金特別会計から国際農友会への貸付
- 第5号議案 議長及び議事録署名人について

基金管理運営委員会

令和2年5月22日に基金管理運営委員会が新型コロナウイルス感染症予防対策によりWeb会議方式で開催され、国際農業交流事業推進基金の運用報告及び今後の方針等について話し合われました。

協会人事

採用 | ~よろしくお願ひいたします~
令和2年4月1日 富永 和弥(業務部派遣業務課職員)

退職 | ~お疲れ様でした~
令和2年4月30日 櫻井 耀(業務部派遣業務課職員)

協会の行事

ブロック別 国際化対応営農研究会 (国際化対応営農研究事業)

<北海道・東北ブロック>

開催地：岩手県
期 日：未定
事務局：岩手県国際農友会
(一般社団法人岩手県農業会議内)
TEL.019-626-8545

<関東甲信静越ブロック>

開催地：東京都立川市
期 日：令和3年2月12日
事務局：東京国際農業者協会
(JAEC 内 TEL.03-5703-0253)

<東海・近畿・北陸3県ブロック>

開催地：奈良県
期 日：令和3年2月4日(予定)
事務局：奈良県国際農業者交流協会
(奈良県農業水産振興課内)
TEL.0742-27-7442

<中国・四国ブロック>

開催地：鳥取県
期 日：未定
事務局：鳥取県国際農業者交流協会
(会長：川本正一郎様方)

<九州ブロック>

開催地：宮崎県
期 日：令和2年11月(予定)
事務局：宮崎県国際農友会
(宮崎県農業経営支援課内)
TEL.0985-26-7131

事業関係者の動向

訃報 謹んでご冥福をお祈りいたします。

F. Veul さんのご逝去



令和2年5月16日、オランダ農業研修事業の始まったころから研修生の現地サポートをして下さっていた、フランチスクス=フェールさんが、96歳でお亡くなりになりました。たくさんの研修生がオランダ語を教わりました。

お知らせ

ニューファーマーズは オンライン配信になります



現在、ニューファーマーズは、海外農業研修事業のOB・OGや事業関係者を含めると10,000名を超える方々にお送りしています。協会と会員・関係者の皆様をつなぐ大切な架け橋として今号で248号を数えるに至りました。一重にご愛読いただいている皆様のおかげです。

さて、ニューファーマーズは、次号よりオンライン配信となります。これからはカラー版で、かつページ数にあまり縛られない紙面づくりが可能となります。本会にメール登録をされている方にはPDFで配信するとともに、バックナンバーは本会のホームページでご覧いただけます。

つきましては、まだEメールをお知らせ頂いていない方、変更をされている方は、最新のEメールアドレスをお教え下さい。

Eメールアドレスのお知らせ送信先
活動支援課担当：joho@jaec.org

封筒に同封されているアンケート用紙にご記入の上、Faxでお送りいただいても構いません。ご面倒をおかけしますが、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

編集後記

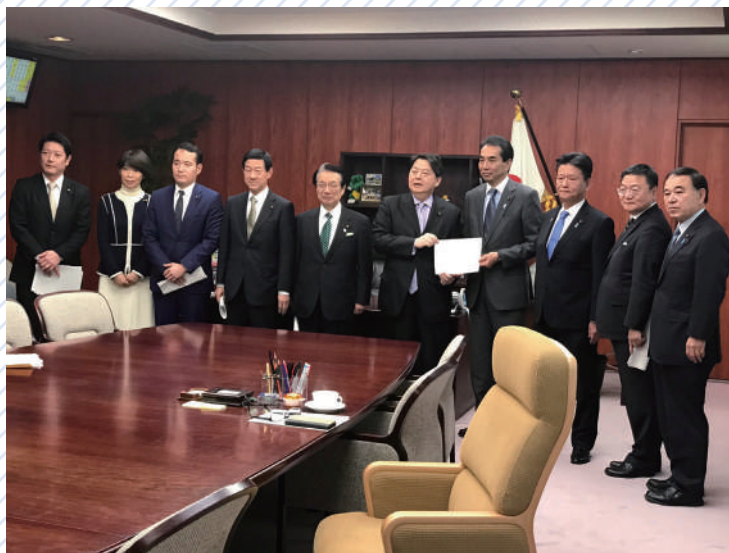
新型コロナ関連一色のニューファーマーズとなりました。時代に合わせて変化をしていく、その中で、伝統も守っていく。未来永劫に続くための努力は、その時々に関わる人々の営みにかかっていると強く感じる、この頃です。





Vol.22 contents

ご挨拶.....	1
活動報告.....	2～3
各ブロックからの報告.....	4～6
天地人.....	6
農業（地元）を逃げた男.....	7
会員のひろば.....	8



議連活動にて農水大臣訪問 詳しくは3ページ

パンデミック令和の変



国際農友会 会長 星智宏
〔宮城 / S56 / 米2〕

今年は雪も少なく山々の山頂も早々と雪が無くなっていました。地球温暖化が進んでいるなと感じていました。

まさか、コロナウイルスで世界中を巻き込んだ事になろうとは誰も想像しえなかったと思います。生物兵器と言う言葉を聞いたことがあります。まさに、その恐ろしさに驚愕でありました。新型コロナウイルスにより世界各国の産業や人々が精神的、経済的にダメージを強いられ困窮した社会生活になり、困惑とストレスの日々を強いられています。

国際農業者交流協会及び国際農友会も5月の時点で予定していた事業が実施できず会議等もできない状態となり、現在の状況が改善に向かえば良いが、逆の事も想定しなければならず、出口がわからない状態です。派遣事業及び受入事業も実施できず、協会運営にも暗雲が立ち込めているように思えます。6月に開催の令和2年度の総会は、新型コロナウイルス感染予防対策により一堂に会するのを避けて、書面表決としました。国際農業者人材育成協議連についての活動もコロナの状況を勘案し、総会日程未定です。

いつ、この事態が収束するのか先が見えないところがあり、活動も見通しがつかず、このような状態が長期に渡れば事業運営もかなりのダメージを受けると思えます。交流協会及び国際農友会の存続にも影響が出てきた際には、会員の皆様からのご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

見えない脅威



国際農友会 副会長 榎垣 真城
〔愛媛 / H3 / デンマーク〕

毎年、想定外の自然災害に甚大な被害を被ってきました。

今までのどんな災害でもない未知の脅威に見舞われています。新型コロナウイルスという、目に見えない脅威が世界中の人命を脅かせる事となりました。

先ずは、何かしら被害がでていますことを、お見舞い申し上げます。

こうなりますと、研修で培われた経験を支えに耐え抜くしかありません。国や行政の支援策も勿論大事ですが、自らできることを考え行動し長期戦を乗り切りましょう。

この厳しい状況下に、派遣先国で頑張っている研修生もいます。途中帰国を余儀なくされるかもしれません。これから渡航しようとしている国内研修中の仲間もいます。しばらく渡航延期や中止となるかもしれません。それらを支え続けていくJAECA職員のみならず、国際農友会OB・OGの協力なくしては、この危機的状況を乗り越えることができません。

どうか皆様のご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。

これからお願いする事ばかりですが、ここは一致団結し一丸となつて前へ進んでいきましょう。

国際農友会へのご寄附、 ありがとうございます!!

去る2月21日に国際農友会の令和元年度第4回理事会在開催されましたが、その際に、高見澤宜男理事（長野／S59／米2・20回生）より「S59／米2・20回生同期会の皆様からのご寄附」が星会長に贈呈されました。米2・20回生の同期会が2月9日、千葉県において開催された際に、高見澤OBから国際農友会の活動資金がまだまだ潤沢でないことを聞いた同期の方々が寄附金を募って下さったとのことでした。本間惇顧問（東京／S41／米1・16回生）からも寄附金を頂戴いたしました。有り難うございます。



また、故赤地勝美OB（群馬／S41／米1・17回生）のご遺族より、「故人が生前『海外農業研修が自分の人生にとって貴重な体験であったので、少しでもOB・OGの皆さんの活動や後進育成のお役に立ちたい』と言っていた。」との事で、多額の寄附をくださいました。心から感謝申し上げます。国際農友会活動の充実のために、大切に使用させていただきます。

令和2年度通常総会

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、大規模集会等の自粛が求められ、今年度開催予定でした総会については議案書の送付及び書面による議決権行使を以って総会の開催とさせていただきます。

各議案に関する決議の結果を次の通りご報告します。

- 開催日
令和2年6月10日（水）
- 総正会員数 46名
うち、出席者数 45名
- 審議結果
決議事項
第1号議案 令和元年度活動報告及び収支決算書の承認
賛成 45名、反対 0名
第2号議案 令和2年度活動計画及び収支予算書の承認
賛成 45名、反対 0名
第3号議案 議長及び議事録署名人について
賛成 45名、反対 0名

結 果

すべての議案について、出席した正会員の過半数を以って可決されました。

1年間の海外農業研修 無事修了!!

去る3月11日、H30ヨーロッパ研修生（11名）とH30オーストラリア研修生（9名）が、1年間の研修を無事終えて、元気に帰国しました。

国際農友会では、帰国歓迎会を開催して彼らの研修修了をお祝いする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、残念ですが行事を取り止めることとしました。

研修生たちには、国際農友会からの記念品（KOKUSAINOYUKAIと刻印された名刺フォルダー）を贈呈しました。

研修先国で貴重な経験を積み、一回りも二回りも遅くなって帰国したフレッシュなOB・OGがこれから各県に戻り、皆様の組織活動に参加しますので、よろしく願います。



オーストラリアから帰国!



ヨーロッパから帰国!

Hakusan Holdings ハクサンホールディングス株式会社

海外研修を受けた皆さん、
私たちと一緒に働いてみませんか。

当社は園芸分野で国際的なビジネスを展開する種苗会社です。詳細は下記まで

〒470-0104 愛知県日進市岩藤町三番割321-1 TEL.0561-75-5777(代) FAX.0561-75-5776
E-mail:info@hakusan1.co.jp http://www.hakusan1.co.jp

AIG損害保険株式会社

AIG

東京法人営業統括部
東京コーポレートキャリアエージェント営業部
営業1課 担当：室田

〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-2-1 アルカセントラル 17F
TEL：03-5637-0721 FAX：03-3622-2040

農業人材育成協議連 活動報告

昨年12月18日（水）に、林芳正会長初め9名の協議連会員が、農林水産大臣室を訪問し、令和元年6月5日の第一回総会にて議決された「国際競争力ある農業人材の育成に向けた新たな取組について」の決議文を江藤拓農水大臣に手渡し、国際的視野を持った農業人材育成に対する要請活動を行いました。（今回の申し入れには国際農友会から藤森副会長、椎橋理事、本間顧問が立ち会いました）

林会長から、「江藤大臣も議連メンバーなので、本議連の趣旨はご理解頂いていると思うが、広義的な農業人材育成に繋がる様々な活動を行っている国際農友会という組織が

ある。農友会には海外での研修を経て現場で頑張っている農業者や農業関係者が非常に多いので、今後も素晴らしい農業分野の人材を育成する海外農業研修事業を応援して頂きたい。」と要請して頂きました。

江藤大臣は、「新規就農者数も減っている状況下、農業担い手育成は極めて重要なことで、非常に重要な課題である。次年度も頑張るつもりで、何とか改善しないといけないと感じている。特に農業分野の優れた人材が地域に定着してもらうことが重要で、農友会OB・OGのよう

な人々と共に人材育成・定着に協力して頂けるかということがとても大切である。自分は大員としてこの決議文の内容にしっかりと関与すべき立場なので、じっくり検討させて頂きたいと考えている。」と述べておられました。

国際農友会では、協議連会員の代議士と歩調を合わせ、今後も研修参加者への支援要請活動を進めていきますので、会員の皆様にも更なるご支援・ご協力を頂きますようお願いいたします。

国際競争力ある農業人材の育成に向けた議員連盟 会員名簿

令和2年6月26日現在 会員数129名（順不同、敬称略）

都道府県	衆・参	氏名	役職名	都道府県	衆・参	氏名	役職名	都道府県	衆・参	氏名	役職名		
北海道	参	長谷川 岳		岐阜	参	渡辺 猛之		佐賀	参	山下 雄平	幹事		
	衆	武部 新	幹事		衆	武藤 容治	幹事		長崎	参	古賀 友一郎	幹事	
	衆	和田 義明			衆	金子 俊平				衆	北村 誠吾	幹事	
	衆	吉川 貴盛			衆	今枝 宗一郎	幹事			衆	加藤 寛治		
青森	衆	木村 次郎		愛知	衆	根本 幸典	幹事	熊本		参	馬場 成志	幹事	
	衆	西村 明宏	幹事長		衆	青山 周平			衆	野田 毅	顧問		
宮城	衆	伊藤 信太郎			三重	参	吉川 ゆうみ			大分	衆	坂本 哲志	
	参	石井 浩郎				参	こやり 隆史				衆	金子 恭之	
秋田	衆	御法川 信英	副幹事長	滋賀		衆	大岡 敏孝		宮崎		参	穴見 陽一	幹事
	衆	富樫 博之	幹事			衆	武村 展英				衆	松下 新平	
山形	衆	遠藤 利明			京都	衆	小寺 裕雄			鹿兒島	衆	武井 俊輔	
	衆	根本 匠	副会長			衆	田中 英之				衆	江藤 拓	
福島	参	岡田 広	幹事	大阪		衆	中山 泰秀		比例		衆	森山 裕	副会長
	衆	葉梨 康弘				衆	左藤 章				衆	小里 泰弘	副幹事長
茨城	衆	国光 あやの			兵庫	衆	谷 公一	副会長		参	衆	金子 万寿夫	
	参	高橋 克法	幹事			衆	山田 賢司				参	山田 俊男	副会長
栃木	衆	築 和生	幹事	奈良		衆	渡海 紀三朗		参		参	北村 経夫	幹事
	衆	井野 俊郎				衆	藤井 比早之				参	宮島 喜文	
群馬	衆	小淵 優子			和歌山	参	堀井 巖	幹事		参	参	進藤 金日子	
	衆	新藤 義孝	副会長			参	佐藤 啓				参	藤本 真也	
埼玉	衆	三ツ林 裕巳		鳥取		衆	田野瀬 太道	事務局長	衆		参	青山 繁晴	
	衆	野中 厚				衆	石田 真敏	副会長			参	宮崎 雅夫	
千葉	参	猪口 邦子			岡山	衆	石破 茂	顧問		衆	衆	山本 有二	顧問
	参	豊田 俊郎				衆	赤澤 亮正	副幹事長			衆	宮路 拓馬	幹事
東京	衆	齋藤 健	幹事	広島		参	石井 正弘		衆		衆	斎藤 洋明	幹事
	衆	箇浦 健太郎				衆	逢沢 一郎	顧問			衆	福山 守	幹事
神奈川	衆	小林 鷹之			山口	衆	あべ 俊子	副幹事長		衆	衆	谷川 とむ	幹事
	参	中川 雅治				衆	山下 貴司				衆	岩田 和親	幹事
新潟	衆	松本 洋平	幹事	香川		参	宮沢 洋一		衆		衆	古川 康	幹事
	衆	牧島 かれん	幹事			衆	岸田 文雄				衆	八木 哲也	幹事
山梨	衆	松本 純			愛媛	衆	平口 洋			衆	衆	渡辺 孝一	
	衆	高島 修一				参	林 芳正	会長			衆	小島 敏文	
長野	衆	森屋 宏		高知		衆	高村 正大		衆		衆	富岡 勉	
	衆	堀内 詔子	幹事			参	三宅 伸吾				衆	佐藤 ゆかり	
静岡県	衆	宮下 一郎	副幹事長		福岡	衆	大野 敬太郎			衆	衆	藤原 崇	
	衆	後藤 茂之				参	山本 順三	副会長			衆	中根 一幸	
富山	衆	上川 陽子		参		衆	塩崎 恭久		衆		衆	星野 剛士	
	衆	城内 実				参	高野 光二郎	幹事			衆	亀岡 偉民	
石川	衆	宮腰 光寛	副会長		参	衆	松山 政司			衆	衆	三谷 英弘	
	参	山田 修路	幹事			衆	藤丸 敏				衆	船橋 利実	
福井	衆	佐々木 紀		衆		衆	三原 朝彦		衆		衆	神田 憲次	
	参	滝波 宏文				衆	鳩山 二郎				衆	中曽根 康隆	
	参	山崎 正昭			衆	衆	武田 良太						
						衆	古賀 篤						

農林水産大臣 江藤 拓 殿 国際競争力ある農業人材育成に向けた新たな取組について

令和元年6月5日 自由民主党 / 国際競争力ある農業人材育成に向けた議員連盟 会長 林 芳正

我が国の農業に国際化の波が押し寄せ、年々農業従事者数の減少が進む状況下で、日本の基幹産業である農業をしっかりと持続しながら、日本農業の技術力を含めた総合力を高め、成長産業化をより進めるためには、農業従事者のより高い経営能力を醸成し、外国人人材の活用のためにも国際感覚を持つ人材確保の強化を図ることが重要である。

農林水産省が人材育成支援のために示した「多様な担い手の育成・確保」のための「農業人材力強化総合支援事業」は新規就農・経営継承などの支援策であるが、農業従事者の確保のみならず、近年の農業の国際化に向けた競争力強化や農村地域の活性化のために輸出戦略に基づいた国際感覚のある経営手法や六次産業を含めた付加価値の強化を進める多様な経営能力などを身につけた人材育成を推進することが喫緊の課題となる。

については、農林水産省等関係省庁の連携の下、次の施策を講じられることを、政府に対して要請する。

記

一、農業及び関連産業において、優れた経営能力、海外諸国の文化背景を踏まえた国際的な見地、外国語による交渉力等を育み、世界を相手に活躍できる人材育成に必要な取組を積極的に進めること。

二、教育現場での食育と共に将来の農業のあり方をイメージできるような環境整備を行い、海外での農業分野の修学や実務的な研修プログラムを活用し、次世代における農業界での活躍に導く制度の構築を進めること。

三、日本国内の農業の成長産業化に必要な人材を確保しながら、特に発展途上国の農業発展に貢献可能な研修員の受け入れ制度をより充実させ、双方にとってメリットのある形での総合的な農業人材育成制度を確立すること。

四、国内の農業人材育成を推進するために、行政組織等からのサポートだけでなく、各地域の経営者やマインドを有する優秀な農場経営者を活用し、国内において多彩な青年農業者を育む総合的な養成システムを構築すること。

五、これらの有効な取組みを実行するため、政府としての施策を具体化し実行できるように必要な予算を確保すること。

右決議する

私と山形県国際農友会

山形県国際農友会
会長 小林 藤徳（H4 / 米2）

山形県国際農友会の会長になってから、早7年になります。日頃より、協会の皆様には大変お世話になっております。また、平成30年に山形県で開催された北海道・東北ブロック国際化対応営農研究会では沢山の方々にお越し頂きありがとうございました。

山形県国際農友会は、近年山形県立農林大学校（旧農業大学校）の卒業生が主に海外研修に参加していますが、若い帰国者が集まり難く、同じ顔ぶれになってしまっているのが現状です。海外研修に参加したいという若者がいることは、OBの一人としては大変嬉しく思っています。その為にもこの会を存続しなければと考え、少ない役員で頑張っているところです。

今まで県の選抜の研修生の中で途中帰国者もいれば、研修に参加できなかった若者もいます。それは私にとって非常に残念な事です。私も、この研修に参加したお陰で農業に携わっていると言っても過言ではありません。そのチャ



ンスを後輩たちに与えられなかった自分の至らなさに苛立ちを感じています。その為にも山形県国際農友会の存続を継続したいと思っています。

私はアメリカに2年間研修に行きましたが、今思うことは、日本人に生まれた事ではなく、山形県に生まれた事の素晴らしいさをつくづく感じています。現在私は花壇苗を生産しています。それを全国に向けてB&Yグループという山形市花壇苗生産組合で出荷しています。そのきっかけを作ってくれた方が山形県のOBの故武田功さん（S56 / ドイツ）でした。私にとって人生の転機はこの出会いでした。

この海外研修が必ずしも全てではないと思いますが、この研修で培った経験があるからこそ、何事にも負けない自分があるのではないかと感じています。今後ともご指導、御協力のほど、よろしくお願い致します。

追伸 グループBBのみんな、元気か？コロナに負けずに頑張ろう！

関東甲信静越ブロック

夢の農産加工をスタート

東京国際農業者協会（東京FIA）
副会長 依田 弥生（H9 / スイス）

スイスから帰国して21年が経ちました。新規就農したのは1年後のこと。鎌1本から買い揃え、土地も全部借地からスタートしました。東京と神奈川の県境にある田畑は住宅地に囲まれ、周りは家庭菜園の面積のほうが多いほど。そんなところで野菜とお米を栽培し、直売と宅配中心の経営をしています。

子育てもひと段落し、ずっと農産加工に興味があったこともあり、昨年の夏からおにぎり製造も始めました。自分で育てた無農薬・天日干しのお米を使い、畑で採れた野菜やスイス同期の野菜を入れたり、自分が本当に「おい



しい」と思う材料で作っています。

毎朝5時から握り始め、7時にはJR高尾駅構内のお店に並べます。東京方面へ向かう通勤客や、都内から高尾山へ登山に来るお客さまも多く、売れゆきは予想以上。おかげで今年から田んぼを増やしました。

スイスで経験し、「いつかは自分も……」と思いつけてきた農産加工。夢見たようなお洒落な形ではありませんが、シンプルなおにぎりだけに奥深さを感じる日々です。お米の精米具合や炊き加減、微妙な塩加減など……素材のおいしさを引き出すために試行錯誤を続けています。

コロナの影響で4、5月は休業となり、落ち込んだりもしました。でも20年農業を続けてきて、つらいときも多くの仲間が日本全国でがんばっている姿にいつも励まされてきました。これからも仲間の姿と希望を忘れず、種を播き続けていこうと思います。

近況報告

和歌山県国際農業者交流協会

会長 堂本 佳史（S57 / 米2）

皆様こんにちは、ご無沙汰しています。和歌山の堂本です。同期の皆さんには『東』と言ったら思い出してくれると思います。私は、この地で元気に菊（切花）の栽培をしています。皆様は如何お過ごしでしょうか。

会長の任期二年を終えましたが総会もできずこの文書を書いています。本

年度より同期の道浦さんが会長を務めてくれるようになっていきます。

さて、本会の活動ですが、総会（県の試験場）・研修会・交流会・農業大学校へのキャラバン活動・帰国研修生・アセアン研修生の歓迎会、県への表敬訪問などを行っています。今後県立農業高校、県内にある大学にもキャラバン活動をしたいと思っています。

研修会では県の研究機関・OB・OGの農場などでも行っており、新技術や農業経営等を学ぶことができ、参加会員同士の交流が盛んで人脈をつくるのに最適な場所でありながら、帰国した若いOB・OGの積極的な参加に至って居ないのが課題です。

特に夏に行う地域持ち回りのBBQは、家族ぐるみの参加そして和歌山講習でお世話になった滋賀県の平井貞夫さんにも毎年参加して頂き、盛大に行われています。会長冥利にすぎます。

このように素晴らしい体験ができ、素晴らしい仲間ができるこの研修を伝えて行きたいと思っています。



中国・四国ブロック

オランダ研修から10年後の今

鳥取県国際農業交流協会 村岡 朋典（H19 / オランダ）

私がオランダでの研修を終え、10年が経ちましたが、その当時の経験や思い出は10年経った今でも色褪せることはありません。大学を卒業と同時にオランダへ渡った若僧には、オランダで体験した農業や生活はとても刺激的で圧倒されました。

農場へ配属され一ヶ月後には、「すごく楽しい！帰りたいくない！」と思っていました。研修先の同僚に誘われ、地元のサッカーチームやボーイスカウトに入りました。研修先の出会いからいろいろ人脈が広がり、沢山の友達ができきました。ボスも同僚も本当に親切で、本当に感謝しかありません。

オランダから帰ると、有限会社村岡オーガニック（家業）に入社しました。オランダで経験した農業とのギャップは随分とありましたが、研修先のボスの助言「Step by step」を胸に頑張りました。その後、オランダ研修後に県外で働いていた兄も加わり、現在は、花壇苗生産と野菜苗生産を主軸に経営を行っております。閑散期に野菜苗生産を行うことで年間を通して仕事が安定し、社員を雇用できるようになりました。ビニールハウス内面積1ha程度になり、10

年前の2倍になりました。

2012年と2016年にオランダへ再訪した際も歓迎パーティーで迎えてくれ、また、オランダの友達が2組、鳥取まで訪ねてくれたこともありました。日本で大きな災害があれば直ぐに「何か必要な物があれば送るよ。」と連絡をくれました。本当に嬉しいです。オランダは私にとって第二の故郷です。

コロナ禍で世界中が大変な時ではありますが、オランダでの経験や繋がりを大切に、今できることを「Step by step」で行っていききたいと思います。



九州ブロック営農研究会
次期開催は宮崎で

宮崎県国際農友会

事務局長 本部 昇（S46 / ドイツ）

例年、宮崎県国際農友会では、総会、県内研修会、アジア研修生受入れ、海外派遣研修生の壮行会・帰国報告会等、様々な活動を行っているところですが、令和2年2月19日、20日の日程で鹿児島県で開催された九州ブロック営農研究会へ参加しました。というのも、次回九州ブロック営農研究会が宮崎での開催となるため、開催状況の下見と本県営農研究会への参加依頼を兼ねた顔合わせの意味も込めて…。

開催にあたり、かごしま国際農友会の幹部の方々には不安もあったようですが、1日目の基調講演「バイエルが描く近未来の農業について」、アメリカから帰国した研修生の研修報告、「未来の畜産女子育成プロジェクト」でニューヨークランド研修を終えた高校生からの研修報告はいずれも内容が濃く、参考になるものばかりで、夜の交流会も大変盛り上がりました。

2日目はフェリーで桜島へ渡り、「世界最大の大根と最小のミカン」のテーマで、農場視察や火山砂防センター訪問などの現地研修、最後には雲一つない天気の下、噴煙をあげる桜島をバックに海を見ながらそして足湯につかりながらの昼食。

研究会の内容と鹿児島島の皆様のおもてなしに九州各県の参加者も大満足で、研究会開催に向けた準備と御苦労に敬意を表したいと思います。そして

次期開催県として大きなプレッシャーを感じたところです。

最後に、九州各県農友会の皆様！今年は宮崎でも素晴らしい研究会を開催できるよう本県農友会会員一丸となつて準備を進めたいと思いますので、多くの皆様の御参加をお待ちしております。



コロナ禍

国際農友会理事 山田豊
(福井 / S58 / 米1)

私は国際農業者交流協会のアセアン農業研修生の受け入れをしている。米国研修より帰国し昭和60年に就農したが、その翌年から研修生を受け入れ、昨年までに34名の研修生がやってきた。まさに農業歴イコール受け入れ歴である。私にとっても、家族にとっても、研修生がいるのが当たり前だった。

しかし、今年は違う。新型コロナウイルスの影響で研修生の入国が延期され、例年ならば4月下旬から研修生と一緒にスタートするところ、一人で農繁期突入となった。

我が家では水稲の作業から始まるが、機械をたくさん使用する為、研修生にその使い方や作業の仕方を教えていると、一時間で行ける事が二、三時間掛つたり、場合によれば半日掛ることもあった。しかし今年はそういう事もなく順調に作業が進んだ。コロナの影響で各種会合等が全て中止となり、毎日家で作業ができるので予定より早く作業がこなせていた。「研修生がいらないのも、気が楽でいいな」とも感じた。

しかし、6月に入り我が家の本業で

ある梅の収穫で状況は一変。急傾斜地の梅園での収穫作業は重労働で、特に収穫物の運搬はかなりきつい。例年収穫作業は臨時のアルバイトをお願いするが、運搬は自分たちで行う。研修生がおらず、今年は全て私の作業になることは分かっていたため、人を探したが急には無理だった。途中、収穫作業のアルバイトに運搬を頼んだが、肩を壊して休んでしまった。結局私の作業となった。研修生は労働力ではないとの思いで、若い頃は私も頑張っていたが、年齢とともに体力も落ち、研修生に助けってもらう事が多くなっていたのだと思う。大いに反省し、今後の労働力の確保や梅園の改善も含めた経営改善の良い機会となった。

国は労働力確保の切り札として、技能実習生制度を拡大しようとしていたが、コロナの影響で一瞬にして吹き飛んだ。日本で勉強したい海外の若者に、日本の技術や知識を体感してもらう事は大賛成だが、ただ日本の労働力に活用するという考えは疑問だ。やはり国内の労働力をもつて農業経営が成り立つ国造りが必要だろう。農業だけでは無く、どの産業でも同じではないか。

恐らくコロナの影響で世の中が大きく変わるだろう。今までの常識が全く通用しなくなるかもしれない。グローバル化を唱えていたが、地域循環型社会になるのではないか。しかし、どんな状況になっても農業はなくならない。時代に則した農業経営を目指したい。

農業を逃げた男。

これは、海外農業研修から帰国して34年、胸の内にぐつぐつと煮え続ける正直な気持ちだ。しかし、それこそが私の推進力でもある。

実家は、元来果樹農家。農家の長男として生まれた以上将来はおぼろげに見えていたが、中学・高校の頃にオレンジ自由化、温州みかんの価格暴落。先が見えなくなった農業大学時代には、自ら何かを変えていかななくてはいけないという焦りの中で、海外農業研修に出会った。

門外漢の鑑賞園芸専攻で派遣されたのはロスアンゼルス郊外にある「San Gabriel Nursery & Florist」。当時は鉢物・苗物の生産・卸販売と、農場に併設された実店舗で苗木・盆栽・切花などを販売、日本人研修生は米国人スタッフと共に、生産・販売・接客・配送などを担当していた。ぼんやりとして生きていたみかん農家の長男が出会ったのは、農作物の生産というよりも「言葉」による「価値」の創造と流通だ。実店舗での接客で否応なしに「英語」を叩き込まれ、お客の「ニーズ（需要・必要）」に耳を傾け、より付加価値のある「シーズ（会社独自の技術・商材）」へと導く流れは今の仕事に通ずる所がある。

農業(地元)を逃げた男



愛媛県国際農業者
交流協議会 役員

清家 正亀
(愛媛/S58/米2)



JOEU FM 愛媛
農業留学情報番組
いただき！ E-hime!



Shopify 公式ブログより
農家から転身して
起業家になった物語

現在、私はオフィス・セイケという個人事務所を運営しており、Shopify(シヨッピファイ)というECプラットフォームを使った玩具輸出ビジネスを経営の軸とし、その経験を生かしながらオンラインサイトの立ち上げ支援するShopifyパートナーを生業としている。

今、私は松山市の「FM愛媛」で海外農業研修を取り上げる「農業留学情報番組 いただき！ E-hime」を担当している。この番組は、元研修生たちをスタジオに招いてのインタビュー、派遣先で聴いた思い出の曲リクエスト曲をメッセージとともに紹介している。皆さんの大好きな思い出の曲とそこにつながる体験談ほど、パワフルな啓蒙活

平成30年7月に起こった西日本豪雨災害では故郷の吉田町で13名の尊い命が失われ、また築120年を超えていた私の生家も裏山が崩れ全壊した。農具を置いていた倉庫も全壊、田畑も一部を残して土砂に埋まった。一体何が起こったのか。一体何がいけなかったのか。多くのボランティアの方々助けられながら瓦礫を片付け、行き場のない怒りと悲しみが自分を責めていた頃、同期の研修生たちから

数々のお見舞いが頂いた。彼らの美味しいお茶やブドウなど丹精込めて作られたものが、沈んだ食卓に素晴らしい花を添えてくれた。ある時は一通の封筒が届き、お見舞い金と手紙が入っていた。

「清家、負けるな。」の一筆は、同じ短期研修先で聴いていた彼の声で僕に話しかけてきた。仲間がいてくれる有り難さをこの時ほど感じた事はない。

さて、タイトルの「農業(地元)を逃げた男」である。

長男として継ぐべき実家は、西日本豪雨で全壊し、もうない。今の私に残っているのは、海外農業研修を元手にして培ってきた「越境ECビジネス」と「家族」、そして「可能性」である。

私のように農業を生業としていない元研修生も全国にたくさんいる。それぞれに違う。そして、おそらく心のどこかで、何かをやり残してきたのではともやもやしている方も多いのではないだろうか？しかし、そうではない。本当に大切なことは職業が何かということではなく、あの研修から何を学び、何を世の中に問いかけて行動しているかということではないだろうか？

農大の学生だった頃に柑橘学を教授いただいた故・白石雅也先生(元愛媛大学農学部部長)

には、愛媛県国際農業者交流協議会の名誉会長を務めていたが、その白石先生に言われた一言は今でも忘れない。「他とは違ってお前のような奴が要る。お前にしかできないことで進め。」

1995年から母校である愛媛県立農業大学校にて英語講師を務めて今年で25年となった。白石先生と同じ教壇に立っていることは今でも恐れ多いが、それでも農大の学生たちにはこの研修事業の意義と、彼ら自身の中に眠る可能性を広げることが止めるなど話しかけている。そして教え子達の中から、海外農業研修に参加した学生達がいることを私は素直に嬉しく思う。

農業をやっていないくても、海外農業研修に参加したことは宝物であると信じていたい。その宝物を今必要としている若者たちがきつと近くにいるはずだ。今と昔の自分に向き合うのは簡単ではないが、勇気を持って彼らにこの研修について話しかけて欲しい。溢れんばかりのエネルギーで飛び込んだあの頃のあなたが、きつと蘇るはずだ。

Agricultureは、culture(文化)を内包していて、農業はすべての産業に通ずる道だ。日本文化に誇りをもって進んで行こう。ありとあらゆる生業を通じて。

会員のひろば

設立30周年記念・ 第15回スイス会総会

開催日:令和元年7月20日~21日
開催地:北海道



福岡県組織 帰国者報告 会&懇親忘年会

開催日:令和元年12月5日
開催地:福岡県



S59米2・20回生同期会

開催日:令和2年2月9日
開催地:千葉県



大阪府組織&奈良県組 織共催 研修生壮行会

開催日:令和2年3月4日
開催地:大阪府



出版

OBが書籍を出版されましたので、
ご紹介します。是非お読みください。



保坂 治良OB
(東京/S38/米3、
ペンネーム:二宮英郷)
書籍名:「海の響き」
出版社:アジア文化社



富安 裕一OB
(熊本/S45/米2)
書籍名:「幸福の国で
働いてみた」
出版社:熊日出版

会員の動向 (敬称略、順不同)

叙勲・受賞

平成29年度春の叙勲 旭日単光章
蓮岡 興四郎(岡山/S35/米3)
平成29年度北海道産業貢献賞
中村 和徳(北海道/S45/米2)
平成29年度兵庫県農業賞
西山 利幸(兵庫/S44/米1)
平成30年度春の叙勲 旭日小綬章
木田 久主一(三重/S46/米2)
令和元年秋の叙勲 旭日双光章
西山 利幸(兵庫/S44/米1)

令和元年秋の叙勲 旭日双光章
富安 裕一(熊本/S45/米2)
令和元年秋の叙勲 瑞宝単光章
吉野 藤彦(群馬/S41/カナダ)
令和元年12月
第49回日本農業賞
「食の架け橋の部」
特別賞
くまもと☆農家ハンター
(代表:宮川将人OB(熊本/H13/米2))

優秀賞

有限会社 ぶどうばたけ
菱山中央醸造 有限会社
(三森基史OB(山梨/H25/米コンビ))
令和元年度(103回)農事功労者
緑白綬有功章(酪農部門)
中村 和徳(北海道/S45/米2)

当選・就任

平成31年4月 宮崎県議会議員
丸山 裕次郎(宮崎/H1/米1)
令和元年5月 宮崎県議会議長
丸山 裕次郎(宮崎/H1/米1)
令和2年3月 熊本県知事(4選)
蒲島 郁夫(熊本/S42/米2)

結婚

令和2年1月 中川 裕史
(熊本/H27/アメリカ)

ご逝去

平成27年5月 家城 健孝(熊本/S42/米2)
平成28年 田中 昭典(愛媛/S31/ドイツ)
平成28年1月 山口 純一(千葉/S33/米1)
平成29年3月 石川 裕也(山口/S31/米3)
平成29年7月 藤原 正次(山梨/S31/全米)
平成29年12月 武石 秀之助(秋田/S31/米3)
平成30年9月 高橋 正佳(群馬/S35/米3)
平成31年1月 貞方 忠義(長崎/S35/米3)
平成31年1月 渡辺 延夫(福島/S31/米3)
平成31年2月 鶴田 光徳(宮崎/S40/米2)
平成31年3月 皓司(香川/S40/米1)
令和元年 田中 秀夫(長野/S45/米2)

令和元年 花嶋 篤俊(奈良/H3/米2)
令和元年7月 権平 弘(新潟/S48/米1)
令和元年10月 江見 武(佐賀/S35/米3)
令和元年10月 蔵本 勉(カナダ/S35/カナダ)
令和元年11月 中小路 勉(京都/S32/米3)
令和元年12月 安藤 健二(秋田/S42/米2)
令和元年12月 森安 忍(岡山/S32/米3)
令和2年2月 新井 新一(埼玉/S49/米1)
令和2年2月 三浦 勇(宮城/S44/米2)
令和2年4月 本間 新太郎(新潟/S31/カナダ)
令和2年5月 星原 義人(鹿児島/S47/米2)
令和2年6月 佐々木 邦男(宮城/S31/米3)

令和2年7月 本間 恒行(北海道/S42/米2)
年月不明 内田 慶二(東京/S40/米2)
年月不明 中野 勉(熊本/S34/米3)
年月不明 青山 庄兵衛(福井/S31/米3)
年月不明 谷口 徳治(福岡/S31/米3)
年月不明 田中 久生(熊本/S33/米3)
年月不明 富手 行士(岩手/S32/米3)
年月不明 川田 弘(埼玉/S50/米2)
年月不明 石川 虎幸(福岡/S31/米3)
年月不明 上久保 三朗(鹿児島/S33/米3)

編集 後記

震災の時の原発放射能の飛散で要らぬ警戒とかへんな逸話が飛び交った。
今回も見えない敵を相手に手段を講じなければならず、ストレスで痩せるかと思ったら
体重が増えた！笑

